

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	岐阜県岐阜市美島町1丁目18番地		
自己評価作成日	平成30年6月15日	評価結果市町村受理日	平成30年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kami=true&aj_gyosyoCd=2190103768-00&PrEfCd=21&Ver:si onCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの趣味や嗜好などを把握し、ショッピングモールへ買い物へ出かけたり、外食等やドライブに出かけたり、季節に合わせた行事、花火見物や干し柿づくり等行っています。ボランティアの方の協力にて施設内で音楽会や漫談などのレクレーションを皆様と一緒に楽しんでいます。重度化されている入居者の方が数名いますが、家族、主治医、訪問看護、職員と連携し、可能な限り住み慣れたホームで終末期を迎えられるような体制を取っています。職員、入居者の方が1つの家族のように支え合いながら暖かい笑顔の絶えないホームづくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、今までと変わらない生活ができるよう、家族のように、利用者一人ひとりと目線を合わせ、笑顔で信頼関係を深める支援をしている。車椅子の利用者も一緒に温泉や散歩に出かけ、地域住民と言葉を交わしている。食事は健康の基と考えホームで職員が手作りしている。旬の食材を、彩りよく、食欲が増すように配膳を工夫している。利用者の健康管理も、医師や訪問看護、歯科衛生士の口腔ケアと連携しながら、終末期から看取りまで家族と一緒に支援している。管理者や職員同士がボーリング等で親睦を深め働きやすい職場づくりをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「人と人との絆を大切に思いやりの心を持ちいつも笑顔で介護活動に務めます」をモットーに職員全員で共有し実践しています。	管理者は、毎日のケアの中で、言葉使いに気をつけ、相手の気持ちをくむよう職員に話をしている。職員は、笑顔で一人ひとりと向き合い、信頼関係を築くよう心がけ、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も自治会の副会長を務めさせて頂き事業所として地域貢献できるよう努めています。	自治会の副会長の役を務め、集まりで福祉の話をしたり、公園の清掃に参加したりしながら、事業所の現状を話している。野菜をもらったり、散歩時に住民と話をしたりして交流を深めている。三味線・コーラス等ボランティアの訪問を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時など、地域の方に積極的にあいさつし、認知症の方々に対する偏見や誤解を払拭できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、事業所の現況報告を行い、意見交換することでサービス向上に活かしています。	身体拘束、認知症の理解など事業所の取り組みを報告し意見や質問に答えながら有意義な会議となっている。災害時の避難場所に事業所3Fを地域に提供している。しかし、参加メンバーが限られている。	家族や地域等、多くのメンバーの参加を求め、意見や要望を聞きながら運営に活かすことを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みなどを報告するほか、市役所に電話や直接訪問し分からないことなどを相談し、助言を受けています。	地域高齢者の水害対策マニュアル作成の助言や相談に出かけたり、書類の提出、利用者の個別相談にも出かけたりしている。担当者の訪問時には現状報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を確保した上で、必要のないベット柵を撤去したり、どのようなことが身体拘束になるか常日頃から話し合っています。職員も自分が介護される立場になり、身体拘束について理解しながら取り組んでいます。	定期的に身体拘束の会議を開き、身体拘束の意義を理解し、利用者の立場に置き換え、食事時の車椅子の位置、利用者の動き等具体的に話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の研修会などに参加し、研修で学んだことをミーティングなどで発表し日々のケアを振り返り虐待防止に努めています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない方は、岐阜市社会協議福祉会の日常自立支援制度や後見人制度を活用しながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族の方と十分話し合いをし入居後も疑問点や、不安なことなど随時相談できる体制を取っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の方から苦情が出たとき、ミーティングで話し合いをし、管理者が運営推進会議で発表し、相談、助言を受け運営に反映させています。	家族の要望・意見を、訪問時にリーダーや職員が聞いている。状態にあわせ家族に電話等で連絡して意見を聞いている。利用者の外出希望や家族の意見・要望は会議で話し合い改善に努力している。家族の意見は運営推進会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換や提案を聞いたり個別に意見を聞き運営に反映できるような取り組みをしています。	日常、職員の意見要望苦情は管理者が直接聞いたり、リーダーが聞いている。出された意見は会議で全職員で話し合い解決している。月1回はボーリングに出かけ親睦を図っている。しかし、管理者が職員一人ひとりの思いや悩み等、直接聞く機会が少ない。	職員一人ひとりの力を活かし育てる取り組みと、一人ひとりの、意見や思いを把握できる機会を多くして欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況や努力を評価し給与の見直しや賞与を支給できるよう務めています。食事会やボーリング大会などを開催し、職員同士の親睦を深められるよう務めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数に余裕がなく、すべての職員が研修に参加できていない現状はありますが「気付きノート」を作成したり、どのようにしたら安全な介護を負担なく提供できるか常に職員間で情報共有するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の管理者と話し合いをしたり、相互訪問したり他の事業所の優れた点を学び施設の運営に反映しています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の不安な事や困りごとを傾聴し本人が安心して信頼できるような関係を構築できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて家族との面談を重ね、家族の思いを傾聴、共感したり入居してからも利用者ようすを報告するなどし、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、どのような支援が必要かを見極め、他のサービスも検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の能力を把握し洗濯や食器洗いなどを職員と共にやり支え合いながら日々を過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設任せにならないように、定期的に現在の様子をみに来て頂いたり、本人が不安な時などには、家族の方に電話をかけ、話をしてもらうなどして本人を共に支え合える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の方など大切な方との関係が途切れないよう面会に来られたり、定期的に自宅に戻り家族と過ごしていただいたり関係が途切れないよう支援しています。	家族の訪問は頻回にあり、自宅に戻るなど、本人の要望を叶える支援を継続している。疎遠になりがちな、高齢の知人や友人にも連絡し再訪をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者同士の関係性を把握し、入居者同士が助け合い、支え合いながら生活できるよう支援しています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了すると、本人、家族と疎遠になっているのが現状です。契約終了後も必要に応じて相談援助等ができるよう取り組んでいきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話を聞く機会を設け本人の希望や意向を聞き可能な限り支援できるよう務めています。	利用者の元気がない、言葉が少ない等、日常の変化に気づき、個別に時間を作り聞いている。喫煙者には、喫煙しながら別室で雑談をまじえ、意向の把握に努めている。困難な人にも表情・行動を見逃さず声かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人などからこれまでの生活歴や暮らし方など情報収集をしその人らしい生活が送れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、入居者の気分や体調に合わせて無理のない様過ごせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、管理者、ケアマネ、職員、本人、家族と話し合いをし、きずきアイデアを反映し現状に合わせた介護計画を作成しています。	ケアマネジャーを中心に、介護記録・職員の意見を基に会議で意見交換し作成している。医師の訪問診療日・家族訪問時に意見・要望を聞いて反映している。状態の変化には即時見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、職員の意見をもとに、管理者、ケアマネと話し合いをし、現状にあうケアプランの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、家族、本人、と話し合いをし訪問看護を使いながら支援しています。家族の送迎による通院が出来ない場合は、職員による通院介助を行っています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の良い日には、近くの公園に散歩へ出かけたり春には施設近くの川沿いに桜見学に出かけたり、スーパーに買い物へ出かけたりにするなど市地域資源を利用し楽しく暮らせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に以前から通っている病院に家族の方通院されたり、当施設の協力医では24時間対応にて急変時にも敏速に対応し入居者の方が安心できるよう支援しています。	かかりつけ医は家族の希望に合わせている。家族との受診は、日常の状態を書面で渡し結果を確認している。家族の都合悪い時は職員が代行している。協力医や訪問看護師の訪問時には状態の指示を受け、24時間の連携もできている。歯科衛生士の口腔ケアの指導もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と提携し、定期的きてもらい入居者の健康状態を共有しています。また体調不良時や医療面での不安があれば直ぐに報告、相談し、		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを活用し、日々の様子を細かく説明し定期的に本人の様子を見に行き担当看護師から現在の様子を聞き退院後の対応の仕方などを話しあいながら医療機関の方々との関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族と話し合いをし意思や意向を尊重しながら終末期の方針を決め、主治医訪問看護師、職員、家族で協力しながら可能な限り住み慣れた施設で看取りができるよう取り組んでいます。	契約時に事業所の方針を伝えている。食事が取れなくなった時点で、医師・家族・事業所で話し合い同意書を取り交わしている。訪問看護と24時間体制で支援している。職員はマニュアルで学習をしている。看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを置いていますが、訓練等は行えてないのが現状ですが、ミーティング等で事例検討し対応の仕方等話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施していますが、夜間帯に災害が起きた場合職員数が少ないため、避難誘導ができるか、重度化された方、移動が困難方など避難誘導ができるのか不安ですが日頃から地域の方々交流し助け合える関係作りにも努めています。	年2回、夜間想定を含め訓練を行っている。訓練時、地域住民の協力を得ている。訓練後職員で意見交換している。備蓄も順次整えている。水害による地域災害について、事業所3Fを地域住民の避難場所として提供を話している。運営推進会議でも地域と連携・協力を話し合っている。	

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や人柄を把握し呼び方や態度、接し方などに十分配慮し相手を敬う気持ちを大切に対応しています。	一人ひとりの性格や人柄を理解し、本人にあった対応をすることを話し合っている。特に名前の呼び方は本人の希望にあわせている。声のトーンや早口にならないよう、本人に合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人に寄り添い思いや希望を傾聴し自己決定できるよう困難な場合相手の気持ちになり支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、その日の体調や気分に合わせてレクリエーションや散歩や体操など本人の希望に合わせて無理なく支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味や拘りを大切にし髪型や洋服などおしゃれを楽しんで頂きその人らしさを活かせるよう支援しています。男性の方は毎日髭剃りをし清潔感を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態にあわせて、普通食、刻み食ペースト食、軟飯、おかゆを提供し、美味しく安全に食事が楽しめるよう支援しています。職員も一緒に食事をし、食器洗いや片付けをしています。	担当職員が利用者の好みを取り入れ、住民からもらった旬の食材を使い、彩りよく食事の進む工夫をしている。一人ひとりの身体状態に合わせた形態で提供している。職員も楽しい会話を交えながらテーブルを共にしている。利用者も食器拭き等している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事量をチェックし必要な栄養が取れるよう支援しています。水分摂取が困難な方には、お茶ゼリーやとろみをつけるなどし、工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて毎食後口腔ケアを実施しています。歯科衛生士の方から口腔ケアの指導を受けています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて個々の1日の排泄パターンを把握しトイレ誘導し残存能力を活かしてできる限りオムツ使用をしないよう支援しています。	排泄記録を基にパターンを把握し、時間・タイミングを見逃さないように声をかけ、トイレ誘導している。オムツを使用しない支援を心がけている。夜間も利用者に合わせトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し乳製品や食物繊維の豊富な物を提供し自然に排便できるよう工夫し便秘がちな方は医師と相談し下剤を使用し排便出来るよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日は職員都合になっていますが体調を見ながらゆっくり入浴を楽しめるよう支援しています。重度化した方はバスタチェアを使用し浴室へ行き体の洗浄とかけ湯をして体を温めています。	湯温・湯量・順番・好みのシャンプー等一人ひとりに合わせている。入浴剤で〇〇温泉浴の楽しみを演出している。全介助の利用者もシャワーにとどめず、浴槽に入り入浴気分を味わえる工夫をしている。同性介助を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しや寝具類の洗濯をこまめに行い、清潔さを大切にしています。夜間不眠の方などは、原因を考えゆっくり休息が取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し、副作用や異変に注意を払い、往診時に主治医に様子や症状を説明し、薬の追加や減薬、中止の指示を受け個々に合わせた服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じられるようなレクリエーションや(干し柿作りや花見、花火大会)や行事食を取り入れたり一人ひとりの得意なこと楽しみごとを把握し日々の生活に取り入れ張り合いや喜びを感じていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設でも外出行事等行っていますが、家族の方の協力で自宅に帰られたり、外食やお墓参りなど本人の希望に寄り添いながら支援しています。	天気の良い日は、公園に散歩に出掛け、地域住民と会話をしたり押し花の材料を探したりしている。車椅子の利用者も一緒にドライブや外食に出かけている。希望にあわせ個別の買い物に同行している。本人の意向を聞き、家族と一緒に掛けるよう調整している。	

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方がお金を管理することが困難なため、家族の方からお金を預かり可能な方は、買い物へ行かれた時本人へお金を渡し支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話などされませんが、職員の援助により家族や友人の方に電話をかけたたり職員と一緒に暑中見舞いや年賀状を作成し、家族や友人などへ送れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に、季節に合わせた飾りつけをしカレンダー以外でも今の季節が分かるよう工夫しています。入居者の方の塗り絵や写真を掲示し、明るい雰囲気を出せるようにしています。	塗絵や草花で季節を感じる工夫をしている。長椅子やテレビを配置し、雑誌を見たり、会話やカードゲームができるようにしている。廊下に行事写真を飾っている。トイレ・浴室も清潔でわかりやすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、リビングルームの席の配列などを考慮し、各フロアにベンチやソファを置き会話をしたり休息できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、本人が落ち着いて暮らせるよう、馴染みの物や写真や使い慣れた物を居室に置き、居心地よく暮らせるよう工夫しています。	入居時に使い慣れた馴染みの物を持参することを家族に説明している。本人と相談しながら、鏡台・タンス・椅子や家族写真を飾っている。早朝に換気を行い室温を調整し、居心地よく快適に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、入居者が安全に暮らせるよう工夫しています。居室内は個々に合わせて使いやすい場所に家具を配置しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	岐阜県岐阜市美島町1丁目18番地		
自己評価作成日	平成30年6月15日	評価結果市町村受理日	平成30年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=ion_kouhyou_detai&1_2017_022_kani=true&ji_gvovvOid=2190103768-00&PrEfOid=21&Ver:si onOid=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「人と人との絆を大切に思いやりの心を持ちいつも笑顔で介護活動に務めます」をモットーに職員全員で共有し実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も自治会の副会長を務めさせて頂き事業所として地域貢献できるよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時など、地域の方に積極的にあいさつし、認知症の方々に対する偏見や誤解を払拭できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、事業所の現況報告を行い、意見交換することでサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みなどを報告するほか、市役所に電話や直接訪問し分からないことなどを相談し、助言を受けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を確保した上で、必要のないベット柵を撤去したり、どのようなことが身体拘束になるか常日頃から話し合っています。職員も自分が介護される立場になり、身体拘束について理解しながら取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の研修会などに参加し、研修で学んだことをミーティングなどで発表し日々のケアを振り返り虐待防止に努めています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない方は、岐阜市社会協議福祉会の日常自立支援制度や後見人制度を活用しながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族の方と十分話し合いをし入居後も疑問点や、不安なことなど随時相談できる体制を取っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の方から苦情が出たとき、ミーティングで話し合いをし、管理者が運営推進会議で発表し、相談、助言を受け運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換や提案を聞いたり個別に意見を聞き運営に反映できるような取り組みをしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況や努力を評価し給与の見直しや賞与を支給できるよう務めています。食事会やボーリング大会などを開催し、職員同士の親睦を深められるよう務めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数に余裕がなく、すべての職員が研修に参加できていない現状はありますが「気付きノート」を作成したり、どのようにしたら安全な介護を負担なく提供できるかを常に職員間で情報共有するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の管理者と話し合いをしたり、相互訪問したり他の事業所の優れた点を学び施設の運営に反映しています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の不安な事や困りごとを傾聴し本人が安心して信頼できるような関係を構築できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて家族との面談を重ね、家族の思いを傾聴、共感したり入居してからも利用者ようすを報告するなどし、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、どのような支援が必要かを見極め、他のサービスも検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の能力を把握し洗濯や食器洗いなどを職員と共にやり支え合いながら日々を過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設任せにならないように、定期的に現在の様子をみに来て頂いたり、本人が不安な時などには、家族の方に電話をかけ、話をしてもらうなどして本人と共に支え合える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の方など大切な方との関係が途切れないよう面会に来られたり、定期的に自宅に戻り家族と過ごしていただいたり関係が途切れないよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者同士の関係性を把握し、入居者同士が助け合い、支え合いながら生活できるよう支援しています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了すると、本人、家族と疎遠になっているのが現状です。契約終了後も必要に応じて相談援助等ができるよう取り組んでいきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話を聞く機会を設け本人の希望や意向を聞き可能な限り支援できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人などからこれまでの生活歴や暮らし方など情報収集をしその人らしい生活が送れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、入居者の気分や体調に合わせて無理のない様過ごせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、管理者、ケアマネ、職員、本人、家族と話し合いをし、きずきアイデアを反映し現状に合わせた介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、職員の意見をもとに、管理者、ケアマネと話し合いをし、現状に合うケアプランの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、家族、本人、と話し合いをし訪問看護を使いながら支援しています。家族の送迎による通院が出来ない場合は、職員による通院介助を行っています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の良い日には、近くの公園に散歩へ出かけたたり春には施設近くの川沿いに桜見学に出かけたり、スーパーに買い物へ出かけたりするなど市地域資源を利用し楽しく暮らせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に以前から通っている病院に家族の方通院されたり、当施設の協力医では24時間対応にて急変時にも敏速に対応し入居の方が安心できるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と提携し、定期的にくてもらい入居者の健康状態を共有しています。また体調不良時や医療面での不安があれば直ぐに報告、相談し、		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを活用し、日々の様子を細かく説明し定期的に本人の様子を見に行き担当看護師から現在の様子を聞き退院後の対応の仕方などを話しあいながら医療機関の方々との関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族と話し合いをし意思や意向を尊重しながら終末期の方針を決め、主治医訪問看護師、職員、家族で協力しながら可能な限り住み慣れた施設で看取りができるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを置いていますが、訓練等は行えてないのが現状ですが、ミーティング等で事例検討し対応の仕方等話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施していますが、夜間帯に災害が起きた場合職員数が少ないため、避難誘導ができるか、重度化された方、移動が困難方など避難誘導ができるのか不安ですが日頃から地域の方々交流し助け合える関係作りに努めています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や人柄を把握し呼び方や態度、接し方などに十分配慮し相手を敬う気持ちを大切に対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人に寄り添い思いや希望を傾聴し自己決定できるよう困難な場合相手の気持ちになり支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、その日の体調や気分に合わせてレクリエーションや散歩や体操など本人の希望に合わせて無理なく支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味や拘りを大切にし髪型や洋服などおしゃれを楽しんで頂きその人らしさを活かせるよう支援しています。男性の方は毎日髭剃りをし清潔感を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態にあわせて、普通食、刻み食ペースト食、軟飯、おかゆを提供し、美味しく安全に食事が楽しめるよう支援しています。職員も一緒に食事をし、食器洗いや片付けをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事量をチェックし必要な栄養が取れるよう支援しています。水分摂取が困難な方には、お茶ゼリーやとろみをつけるなどし、工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて毎食後口腔ケアを実施しています。歯科衛生士の方から口腔ケアの指導を受けています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて個々の1日の排泄パターンを把握しトイレ誘導し残存能力を活かしてできる限りオムツ使用をしないよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し乳製品や食物繊維の豊富な物を提供し自然に排便できるよう工夫し便秘がちな方は医師と相談し下剤を使用し排便出来るよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日は職員都合になっていますが体調を見ながらゆっくり入浴を楽しめるよう支援しています。重度化した方はバスタブを使用し浴室へ行き体の洗浄とかけ湯をして体を温めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しや寝具類の洗濯をこまめに行い、清潔さを大切にしています。夜間不眠の方などは、原因を考えゆっくり休息が取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し、副作用や異変に注意を払い、往診時に主治医に様子や症状を説明し、薬の追加や減薬、中止の指示を受け個々に合わせた服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じられるようなレクリエーションや(干し柿作りや花見、花火大会)や行事食を取り入れたり一人ひとりの得意なこと楽しみごとを把握し日々の生活に取り入れ張り合いや喜びを感じていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設でも外出行事等行っていますが、家族の方の協力で自宅に帰られたり、外食やお墓参りなど本人の希望に寄り添いながら支援しています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方がお金を管理することが困難なため、家族の方からお金を預かり可能な方は、買い物へ行かれた時本人へお金を渡し支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話などされませんが、職員の援助により家族や友人の方に電話をかけたたり職員と一緒に暑中見舞いや年賀状を作成し、家族や友人などへ送れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にし、季節に合わせた飾りつけをしカレンダー以外でも今の季節が分かるよう工夫しています。入居者の方の塗り絵や写真を掲示し、明るい雰囲気を出せるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、リビングルームの席の配列などを考慮し、各フロアにベンチやソファを置き会話をしたり休息できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、本人が落ち着いて暮らせるよう、馴染みの物や写真や使い慣れた物を居室に置き、居心地よく暮らせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、入居者が安全に暮らせるよう工夫しています。居室内は個々に合わせて使いやすい場所に家具を配置しています。		